

授業科目名： 外国史Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：根占 献一 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国史		
「学位授与の方針」との関係 星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。 A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。 E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ 高等学校地理歴史科の教員を目指す者が、通時的に世界史（この場合はヨーロッパ史に重点あり）の根本問題を近代まで学び、歴史的観点と基本的知識の修得を目指す。 ① 昔日から今日までの世界史の大きな流れをつかんだうえで、ヨーロッパ史で古代ギリシア・ローマの歴史が重要になる経緯を理解できるようになること。 ② これを受けて、中世ヨーロッパにおけるキリスト教の歴史的役割を理解できるようになること。 ③ さらにこの古代と中世が近代のルネサンスと宗教改革を介してヨーロッパ近代が展開し、さらにはヨーロッパ世界の拡大により、広く所謂新大陸、また極東の地である日本が世界史に組み込まれていくかを理解し、現代の諸問題の根源に歴史的展望を持てるようになること。			
授業の概要 ヨーロッパを中心とした世界史であるが、他地域、インド、中国、日本などとの関わりに留意しながら概観する。歴史的事項の羅列、並列に終わらず、各時代の事項の因果関係、相関関			

係、さらにはある地域と他地域の関係性に着目する。現行の学習指導要領に準拠しながら、各時代の認識が深められる授業としたい。

授業計画

- 第1回：世界史という視点の意義—歴史とは何か
- 第2回：古代文明のなかの地中海地域
- 第3回：ギリシアの誕生—ホメロスの世界
- 第4回：ギリシア文化—その意義と発展
- 第5回：ローマ世界の成立—エトルリア文明などの役割
- 第6回：ローマの共和政と帝政
- 第7回：ローマ文明の世界的意義
- 第8回：ローマとゲルマン—ローマ世界の分裂
- 第9回：中世ヨーロッパの誕生とキリスト教社会
- 第10回：ローマ帝国再建—神聖ローマ帝国へ
- 第11回：皇帝と教皇
- 第12回：中世文化—大学・カテドラル
- 第13回：近代世界へ—ルネサンスと宗教改革
- 第14回：大航海時代と世界
- 第15回：科学革命の時代

定期試験

＊スクーリングでは、第12回～第15回を扱う。

教科書

- (1) 服部 良久、南川 高志、山辺 規子 編著『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房、2006
- (2) 根占 献一『ルネサンス文化人の世界』知泉書館 2019年

参考文献

- ・松本・前沢・河原編『文献解題 ヨーロッパの成立と発展』南窓社。
- ・高橋・村上編『イタリアの歴史を知るための50章』明石書店。
- ・シンメルペニツヒ『ローマ教皇庁の歴史—古代からルネサンスまで』刀水書房、2017

学生に対する評価

レポート評価（25％）、スクーリング評価（25％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する。